



日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレター

No.10 2012年1月25日発行

■ 一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会設立のお知らせ

理事長 高岸 憲二



2011年12月5日付にて一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会が設立されたことを日本整形外科スポーツ医学会会員の皆様へお知らせいたします。

本学会が一般社団法人を目指した経緯につきましては第37回日本整形外科スポーツ医学会総会などで説明して参りましたが、皆様のご理解をより一層深めていただくために要点を述べます。

法人化前の日本整形外科スポーツ医学会は、任意団体でありました。それまで行っていた活動をそのまま継続していくのであれば、任意団体のままでも問題はありませぬ。ただ、社会に認知され、より信頼を得て活動していくためには、一般社団法人となることは必須です。

一般社団法人化にあたり、帖佐悦男理事が担当されている法人化検討委員会によって討議を重ねられた規約を総務委員会および理事会で検討し、本年8月に一般社団法人となった場合の定款(案)を学会ホームページに掲載し、会員の皆さんからのパブリックコメントを募集しました。9月に岩本幸英会長のもと福岡市で行われました第37回日本整形外科スポーツ医学会総会において一般社団法人化の議決がされました。なお会員の皆様よりいただきましたパブリックコメントの中に、定款(案)ならびに法人化に否定的な意見はありませんでした。

評議員会、総会で法人化が承認されましたので、先

に述べましたように12月には公証役場での認証、法務省への設立登記を行い一般社団法人設立となりました。

法人化のメリットと致しましては、一般社団法人は収益事業以外の所得に関しては税制上の優遇を受けることができます。年会費、学会誌への広告収入等の所得に関して税金を払う必要はなく、法人化したことにより企業からの寄附金、研究費等を受けやすくなります。これは学会として大きなメリットであると考えます。日本整形外科スポーツ医学会を法人化することにより、独自の専門医制度を持つ団体として条件の一つをクリアすることができます。また、デメリットと致しましては、規則を若干修正する必要があることおよび会計上のルールを追加することです。具体的には、会計を収益事業と一般会計の二つに分けること、従来は独立していた学術集会の収益も、学会の決算に連結させる必要があります。

任意団体であった日本整形外科スポーツ医学会は解散し、財産を含め一般社団法人に移行しました。役員はそのまま移行し、評議員が代議員に移行します。代議員は一般社団法人の社員となりますので、社員総会=代議員総会となります。

当学会は新法人として新たなスタートを切ることとなりますが、会員の皆様におかれましては、本学会のさらなる発展の為に、より活発な学会活動を展開していただくようお願いするとともに、新法人の運営につきましても、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

■ 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会開催報告

会長 岩本 幸英

第 37 回の本学会は、2011 年 9 月 23 日(金)～24 日(土)の2日間にわたり、福岡市の福岡国際会議場にて開催致しました。整形外科医、理学療法士、トレーナーを合わせて、これまでで最多の 1,119 名のご参加を頂きました。3つの口演会場とポスター会場で 248 題の学術発表や講演があり、各会場で活発な討論が行われました。

今回のメインテーマは、「スポーツ復帰に向けたトータル・ケア」としておりました。スポーツ復帰は選手や家族にとって最大の願いであり、スポーツ医学の最終目標ですが、そのためには、身体局所的な診療にとどまることなく、精緻な診断や手術的治療からリハビリテーションまでを含む包括的な診療とケアが重要です。その思いを込めて、このメインテーマに決定した次第です。以下にプログラムの概要を紹介します。

1. 招待講演

海外から Dr. W. Norman Scott, Dr. Anthony Miniaci, Dr. William E. Garrett Jr., Dr. Marc Safran, Dr. Jeung-TakSuh をお招きし、5題の招待講演を企画しました。膝関節および肩関節といったスポーツ障害の講演に加え、Dr. Safran には、日本ではまだ症例の少ない股関節鏡について、わかりやすく解説していただきました。また、Dr. Scott は Michael Jordan 等が参加したアメリカバスケットボールの "original dream team" のチームドクターでしたが、アメリカのプロスポーツのチームサポートの現状を紹介していただきました(写真 1)。

2. シンポジウム／パネルディスカッション／主題／主題関連演題

4つのシンポジウム、8つのパネルディスカッション、および3つの主題を組みました。いずれのセッションも、1つのテーマに対して講演から主題、そして主題関連演題と連続してプログラムを組むことにより、集中した議論を行っていただくことができました。肩、膝関節のみならず、脊椎、股関節、足の外科のセッションにも非常に多くの聴衆が集まり、活発なディスカッションが行われました。



写真 1 : Dr. Norman Scott による招待講演



写真 2 : 熱気あふれる満席の会場

しばしば立ち見ができるほどの大盛況となったため(写真 2)、急遽会場外に中継モニターを設置して対応しました。

3. スポンサーセミナー

6題のランチョンセミナー、2題のモーニングセミナーを企画しました。内容も超音波、関節鏡から腰痛、筋力トレーニング等まで多くの分野について研修できるように工夫しました。また、第1日目の夕方には特別企画として、元読売ジャイアンツの桑田真澄氏に「試練が人を磨く」と題したイブニングセミナーを開催しました。会場は満員の盛況で、最後にはサインボールが当たる抽選会も行い、学会が非常に盛り上がったひとときでした。

4. 一般口演／ポスター演題

一般口演は、応募演題の中から選択し、16のセッションを組みました。多くの優れた発表がみられ、活発な討論が行われました。ポスター演題は、12のセッションに分け、座長の先生にセッション毎に優秀ポスター候補を1題ずつ選んで頂きました。厳正な審査の結果、最終的に3つの演題が優秀ポスター賞として選ばれ、閉会式で表彰を行いました(表)。

5. ハンズオンセミナー

ハンズオンセミナーは、最近注目が集まっている超音波を3セミナー、関節鏡について2つのセミナーを開催し、多くの先生方に参加していただきました。

講演、シンポジウム等で素晴らしいご発表を行って頂いた先生方をはじめと致しまして多くの方々にご参加頂き、非常に活気に溢れた学術集会になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

表. ポスター優秀賞

単径部痛症候群における可動性・安定性・協調性の評価法の検討

川口工業総合病院 整形外科 塩崎 彰

小学生サッカー選手に対するメディカルチェックの実態～徳島県における検討～

徳島大学 運動機能外科学 鈴江 直人

ナショナルチーム男子バレーボール選手の肩棘下筋萎縮—いわゆるペッコリ病について—

杏林大学整形外科 林 光俊

■ 第38回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を主催するにあたって

会長 筒井 廣明



この度、第38回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を、平成24年9月14日(金)・15日(土)の2日間、パシフィコ横浜にて開催させていただくことになりました。伝統ある本学会を主催させていただきますこと

を、誠に光栄に存じます。

本学会は「整形外科領域におけるスポーツ医学ならびにスポーツ外傷と障害の研究の進歩・発展を目的とし、その成果がスポーツ医学の向上とスポーツの発展に寄与できるよう、日夜研鑽を深めております」との理念に基づいて活動しており、スポーツに係わる人々の年齢やレベルの拡がりと共に、本学会の重要性は年ごとに高まっています。

第38回の本学術集会におきましては、「スポーツと整形外科のCross-Link」をメインテーマとし、「スポーツ」と「整形外科」という2つのキーワードが密に繋がるための下記シンポジウムやパネルディスカッション、ハンズオンセミナーなどを企画いたしております。

■ 部位別には、

- ・ 上肢：投球障害肩、肩関節脱臼、少年野球肘、TFCC
- ・ 下肢：股関節・足関節障害、膝軟骨損傷・半月板損傷
- ・ 脊椎：椎間板性疼痛

■ 競技別には

- ・ 野球、バレーボール、テニス、ラグビー、アメリカンフットボール、サッカーなど

■ スポーツ整形外科医に知っていて欲しい内容としては、鏡視下手術・超音波診断のハンズオンセミナー、スポーツ現場で行われている徒手医学、バイオメカニクス、装具療法、アスレティックトレーナーによるサポートシステムなど。

また、ロンドンオリンピック終了直後での学術集会になりますので、ロンドンオリンピックのメディカルサポートの報告

をしていただくセッション及び、これからのスポーツ整形外科を支えていく人達による「医学生と若手医師が語るスポーツ医学」のセッションなど、スポーツの現場とスポーツ整形外科が一堂に会して、整形外科の各分野でのスポーツ医学への取り組み、各種スポーツ競技別の整形外科の係わり、整形外科医とスポーツ選手の間を埋めてくれている理学療法士やアスレティックトレーナーとの連携の大切さなどの企画から、スポーツ整形外科に関する知識の会得だけでなく、スポーツを行っている人達との様々な形での係わりを円滑に行うために必要な知識が得られる内容となるように準備をいたしております。

一般演題に関しましては、口演以外にe-Posterを用いての口演とディスカッションも行って頂けるように企画し、出来る限り多くの参加者が討論を楽しめるような構成にしていきたいと思っております。

本学術集会は横浜のみなどみらいにあるパシフィコ横浜の会議センター全体を使って行うように準備いたしておりますので、職種を問わずご参加いただき、連携を図っていただければ幸いです。

なお、本学術集会の情報は逐次下記HPにアップロードいたしますので、ご確認のほど、よろしく願いいたします。

■ 学術集会のホームページ

<http://www.issjp.com/jossm2012/>

■ 演題募集

2012年2月7日～3月29日

オンライン申込みのみ

■ 運営事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-1-1 麹町 311ビル 9階

株式会社アイ・エス・エス内

TEL：03-3230-3599 FAX：03-3230-3725

E-mail：jossm2012@issjp.com

■ GOTS-JOSSM-KOSSM Traveling Fellow 体験記

大阪大学整形外科 前 達雄

平成23年5月20日より6月19日までGOTS-JOSSM-KOSSMのトラベリングフェローにて、ドイツ・スイス・オーストリアの3カ国を訪問してきました。日本からは私と弘前大学の山本祐司先生、韓国からはYoung-Mo Kim先生とJi-Hoon Bae先生の合計4名が、フランクフルト空港で合流してスタートしました。各訪問地での日程や移動行程は非常に綿密に考えていただきしており、すべてがスムーズに運びました。訪問した施設は、Klinikum Osnabrück(Osnabrück)、Orthopaedic Hospital Annastift(Hannover)、Ev. Waldkrankenhaus Spandau(Berlin)、ATOS Klinik Heidelberg(Heidelberg)、University Children's Hospital(Basel)、Universittsspital Basel(Basel)、Kantonsspital Liestal(Liestal)、AKH Wien University Hospital(Wien)、Danube University Krems(Krems)、Unfallkrankenhaus Salzburg(Salzburg)、Sporthopaedicum Straubing(Straubing)です。各訪問地に2-4日程滞在し、病院見学および各地の観光、食事を満喫いたしました。その後、学会開催地のMunichへ移動し、GOTSに参加しました。各施設の詳細は山本先生が学会誌の方に書かれる予定ですので、ここでは私なりに興味のあるものを報告します。

<手術>

大きな違いを最も感じたのが手術のシステムです。日本と比べて、土地を広く利用できることもあり、各手術室に付属して前室と回復室があります。ある手術のめどが立つと、前室に次の患者を入室させ、そこで麻酔をかけ始めます。その間に手術が終了し、ベッドごと回復室へ移動して、同じ麻酔科医が麻酔覚醒および抜管をします。空になった手術室では早急に清掃が行われる一方で、前室で次の患者の体位を術者がとります。清掃が完了すると、前室で待機している患者をベッドごと搬入すると、すでに手術ができる状態になっているわけです。終了してから次の執刀までに15分から30分と、非常に効率的に手術が回っていき、1日4件でも15時くらいには手術は終了します(スタートは8時くらいです)。基本的に早く仕事を終わってprivate timeを過ごす、

というスタンスですので、皆が効率的に動きます。また麻酔の導入・抜管は麻酔科医が行いますが、手術中の維持は基本的には看護師が行うので、このシステムが運営できるようです。

<術衣着脱場>

最もショッキングだった場所でした。日本では通常、術衣はロッカーのそばにあります。ドイツでは出口付近にスリッパと一緒にあるため、ロッカーでまずパンツ1枚になります。病院によってはロッカーがなく、ハンガーに脱いだ衣服をかけておくところもありました。とりあえず、パンツ以外の衣服を脱ぎ、(靴も靴下も脱いで裸足になり)術衣、マスク、帽子、スリッパが置いてあるスペースまでロッカーのスペースを通り抜けて行きます。私には、風呂屋にしか思えませんでした。そして、このスペースで術衣やマスク等を身につけ、手術室に入ります。しかし、次にこの着脱場に入るには、別のドアを利用します。別のドアから入ると、そのスペースでパンツ以外のすべてのものを脱ぎます。その格好で進んでいくと、奥で最初に衣服を脱いだロッカーにつながっていきます。要は、術衣着脱場から手術室までは汚染されていない場所で、手術室から脱衣場は血液等での汚染された場所という扱いになって、一方通行になっていました。これも、日本より広いスペースが確保できる利点だと思いますが、清潔不潔の区別ができていて、パンツ一枚に慣れれば、よいシステムに思いました。

<関節鏡>

膝人工関節置換術が多い国でしたが、関節鏡視下手術も多く見学しましたが、手術のセッティングにおいて、大きな違いがありました。日本では関節鏡、カメラヘッド、ケーブル及び光源コードはすべて滅菌処理しますが、ドイツでは関節鏡及び光源コードのみを滅菌し、カメラヘッドからケーブルまでの部分を滅菌せず使用します。但し、カメラケーブル専用の滅菌ビニール袋をカメラヘッドからケーブルに被せて清潔を確保します。これは術野でエコーを用いるときに、プローブからケーブルを覆うのと同じ発想のもので、カメラヘッド、ケーブルの劣化を防止し、



Würzburgにて。左から、私、Dr. Kim、Dr. Bae、山本祐司先生（弘前大学）

また滅菌手間も削減ができるので、ドイツの効率主義が感じられました。

<食事>

もちろん、基本はドイツ料理で、毎日、肉とビールです。その肉も、焼き肉屋の肉とは違い、非常に分厚い肉に甘いソースをかけたものです。ただスイスでは、Italianがあつたり、Frenchがあつたり、チーズやワインを楽しんだりで、多文化が入っているのが感じられました。元来魚よりは肉が好きなのですが、連日の肉は、頻回な移動の疲れもあって、だんだんと胃につかえるようになり、正直なところ、日本食が本当に恋しかったです。

その他、各滞在先ではその地の文化や歴史にも触れました。このように、非常に貴重な体験をする機会を頂き、日本整形外科学スポーツ医学会の関係者の先生方には感謝いたします。また同時に、この経験を後輩の先生に伝えていきたいと思えます。

■ お知らせ

一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会 平成 24 年度研究助成事業（学術プロジェクト）募集

下記の要領で研究助成事業を公募いたします。

なお、研究の成果を①学術検討委員会および理事会に報告すること（報告書提出期限：平成 25 年 5 月末日）、② 2013 年 9 月開催の第 39 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会において発表すること、③日本整形外科スポーツ医学会雑誌に公表すること、が義務付けられています。詳細はホームページをご確認ください。

応募要領

1. 公募件数：2 件
2. 応募資格：1. 一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会会員であること
2. 申請時の年齢は 40 歳以下であること
3. グループ研究も可とする。ただし、その場合の研究代表者は上記 1. および 2. の条件を満たす者とする。
3. テーマ：「現場に直結したスポーツ傷害の予防」に関する研究
4. 研究期間：1 年
5. 助成額：1 件につき 50 万円以内
6. 使 途：研究目的のため使用し、その範囲内であれば用途を特に制限しない。
通常の設備費、消耗品費、旅費、研究協力者への謝金等は使用可。ただし、応募者が所属する組織等の間接経費・一般経費は助成の対象としない。
7. 応募書類：所定の研究計画書
 - ・書式はホームページからダウンロードすること
 - ・研究計画書には、必ず対象、方法、期待される成果について記載すること
特に、方法はできるだけ具体的かつ詳細に記載すること
8. 応募書類提出先：〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル
株式会社コングレ内
一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会事務局 学術検討委員会宛
TEL：03-3263-5896 FAX：03-5216-3115
E-mail：info@jossm.or.jp
9. 応募締切：平成 24 年 3 月 30 日（金）必着
10. 応募締切：平成 24 年 5 月下旬予定

会員登録情報の変更について

勤務先、自宅などが変更となりました際は、お早めに事務局あてメールにてご連絡ください。ご連絡がない場合、学会誌をはじめ事務局からのご案内がお手元に届かないことがありますのでご了承ください。

学会ホームページおよびメールアドレスのドメイン変更について

2011年12月の一般社団法人化に伴って、学会ホームページおよび事務局メールアドレスのドメインを2012年1月20日より下記に変更いたしましたので、ご登録を変更してください。

学会ホームページ <http://jossm.or.jp/>
 事務局メールアドレス info@jossm.or.jp

American Journal of Sports Medicine (AJSM) の購読について

日本整形外科学会スポーツ医学会の会員は、American Journal of Sports Medicine (AJSM: 年12冊発行) を特別優待価格で購読することができます。

	一般価格	特別優待価格
AJSM 購読	\$183.-	\$102.-
オンライン購読	一般向けサービスなし	\$ 30.-

AJSM 購読、オンライン購読のどちらにお申し込みいただいても、1972年の創刊号以降の全刊行物にアクセスが可能です。特別優待価格での購読を希望される会員のかたは、事務局あてメールにて購読希望である旨をご連絡ください。追ってお申し込みについてのご案内をお送りしますので、各自購入手続を進めてください。

編集後記

2011年3月11日三陸沖でマグニチュード8.4の大地震が発生しました。この地震による影響で、東北地方の太平洋岸を中心に大津波による大被害がもたらされました。今現在も、その傷跡は完全に癒やされたとは言える状態ではありません。

スポーツ活動の面では、グラウンドや体育館といったスポーツの活動の場を失った人たち、それ以前にスポーツ活動をする余裕がない人たちが数多く存在し、復興はまだまだ不十分であると聞きます。

被災地以外の各地域の各スポーツ団体が、義援金を集めて被災地へ送る、チャリティマッチを開催する、被災した子供たちを招待して親善試合を行うといったことなど、いろいろと支援を行っています。

皮肉にも、この未曾有の大災害である東日本大震災を機に、人々に『絆』の大切さを再認識させることになりました。復興に際しての日本全体の支援・協力の意識の高まりだけでなく、地域社会でのつながりを大切にしようとする動きや、結婚に至るカップルの増加などの現象がみられたそうです。

このたび日本整形外科学会スポーツ医学会は一般社団法人化されました。『絆』を深めて、さらなる発展を成し遂げることを祈念いたします。

(戸祭正喜)

日本整形外科学会 スポーツ医学会 ニュースレター No.10 2012年1月25日発行

編集：日本整形外科学会スポーツ医学会広報委員会

酒井 宏哉(担当理事)、亀山 泰(委員長)、川上 照彦(アドバイザー)
 大槻 伸吾、金岡 恒治、杉本 勝正、戸祭 正喜、山崎 哲也

発行：一般社団法人日本整形外科学会スポーツ医学会

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 株式会社コングレ内
 TEL 03-3263-5896 / FAX 03-5216-3115
 E-mail info@jossm.or.jp URL <http://jossm.or.jp/>